

最近の数場所での好調さを保持させ1敗を守り優勝争いを演じている。佐賀ノ海、迎えた八日目は大神楽との一番。立会いから左へ回り込もうとする大神楽に、強烈な右のいなしから首を押さえる佐賀ノ海。そのいなしをかわされ左を許すも、右腕を取って土俵際で引き落としに降し1敗を守った。



美空富○(寄り切り)●佐賀海

先場所の大負けから一転優勝戦線を賑わす出羽翼、今場所は本来の実力を発揮し1敗は守って迎えた八日目は大関春ノ翔との一番。互角の立会いだったが、自分得意の形にならず、外へ外へと攻められて反撃できず、送り倒しに破れ2敗目を喫した。



佐賀海○(引き落し)●大神楽

続く九日目は角武蔵と対戦、立会いから鋭い出足を見せ素早く得意の左を差すと、土俵中央から一気に攻め込んできて寄り切りで降し2敗を守った。ここまで7勝を上げ、三役復帰も見てきた。残り二番最低でももう一つは白星を重ねたい。勝間田親方からも期待がかかる。



角武蔵●(寄り切り)○出羽翼



出羽翼●(送り倒し)○春ノ翔

この三名の1敗力士が2敗に後退するなか、美空富士は剣竜と佐賀ノ海を、若剣は超刃と四季嶋を、朱雀湖は伊達破つて2敗を守り、それぞれ千秋楽を迎える事となった。



四季嶋●(寄り切り)○若 剣



超 刃●(押し倒し)○若 剣



美空富○(寄り切り)●剣 竜

この結果終盤の九日目までを取り終えて、依然優勝戦線の先頭に立つ平幕の生駒山を美空富士、若乃嶋、佐賀ノ海、出羽翼、若剣、朱雀湖の六名が星の差ふたつで追走し、賜杯をかけたよいよ雌雄を決する舞台の整った最終開催日の十日目、千秋楽を迎える事となった。

十日目に生駒山が白星を挙げるとその瞬間に千秋楽を待たず優勝が決まってしまう。このまま平幕に独走させ賜杯を与えてしまうのか？それとも協会からの最終の刺客が立ち上がるか？それとも協会の最終の刺客が立ち上がるか？それとも協会の最終の刺客が立ち上がるか？

紫色花盛り？

九日目、幕内の取り組みで珍事？が起きた。若巨対富士花の一番、土俵がどのくらい、東西に控えた力士、水晶嶽、朱雀湖、網風、全員が紫色の締め込みだったのだ。

幕内力士用の紫色の座布団も相まって場内は紫一色に染まっていた。紫は廻しの色として定番だし、珍しい。因みに本名も「紫藤」の富士花は勝利ならず、だった。



千代鈴が圧倒、2連覇

九日目を終えて、向かうところ敵なしの千代鈴が9戦全勝として2敗勢が2場所連続の優勝が早くも決まった。八日目は葵盛、九日目は喜乃郷と今場所初めは対戦する九十九部屋勢との取り組みに注目が集まった。

八日目の葵盛には得意の左からの攻めで勝利、九日目の喜乃郷には右からの攻めで勝ち、改めて左からでも右からでも攻める幅の広い相撲を見せる形となった。あとは、死角全勝なるかだが、死角なしといった様相だ。今の十両では勝てそうだが、相手はいなさそうだが、残り2日どのよう



千代鈴○(押し倒し)●喜乃郷



葵 盛●(寄り切り)○千代鈴

な相撲を見せるのか注目したい。

上位では東西筆頭の元大関の照の王と鬼ヶ嶽が勝越しを決めた。また、幕内優勝経験のある鹿富士も中盤から力を発揮して勝ち越した。残り2勝して勝ち越した幕内返り咲きを果たしたところ。

東四枚目の四国の星、龍不動も2連勝して勝ち越した。悲願の入幕に一步一歩前進している。播磨屋親方の「龍つちやん！頑張りよ〜！」と四国から声援が聞こえてきそう。

十両尻の春雷、祭ノ城もともに勝ち越した。でも全勝の千代鈴との対戦が組まれる可能性もある。この2人は未知数だけにひよっとした(？)、楽しみだ。

千代鈴の活躍とは裏腹の西勢ノ里が7敗目を喫して十両からの陥落が決定的となった。春日根親方も「なんとか十両に留まる成績を！」と願っていたが、出直しとなってしまった。幕下の西安が勝ち越してきてだけに残念な結果となった。

今場所まだ1勝と不振の麻縄部屋の剣灘が引退を表明。九日目で土俵人生を終えることになった。133回初土俵で幕内1場所を経験し、通算勝ち星91勝の成績だった。(錦風)



祭ノ城○(寄り切り)●麒麟王



黒雲海●(寄り切り)○春 雷



葵 盛●(寄り切り)○鹿富士